

大障教ニュース

大阪府立障害児
学校教職員組合
大阪市天王寺区
東高津町7-11
府教育会館704号
TEL 06-6765-8904
FAX 06-6765-8905

障害のある子どもたちに当たり前の学習環境を！

「府内各地域に知的障がい支援学校の新校整備を求める請願」

署名を今こそひろげよう



新しい署名リーフレット
イラストは長谷川義史さん

「過大・過密」「教室不足」がさらに深刻化

大阪府立支援学校に在籍する児童生徒は年々増え続け、今年度、豊中支援学校は児童生徒数が450人を超えています。適正規模をはるかに上回る300人を超える知的障害支援学校は14校にのぼります。府教委は2023年度当初予算案で、「対応が必要な室数」として「391室」をあげています。「転用する教室が無い」「1クラスに10人を超える子どもたちが詰め込まれている」という実態がさらに広がり、「過大・過密」による「教員不足」も深刻化し、子どもたちの教育条件は極めて劣悪になっています。

新たな計画においても、「過大・過密」「教室不足」は解消にならない

大阪府は、2023年度当初予算案において、「知的障がい支援学校の在籍者数の増加に対応し、児童生徒の教育環境を確保するため、新たな支援学校の整備等により、特別支援学校設置基準における校舎面積基準、学級編成基準の不適合の解消、教室不足の

文科省の時限措置は2024年度まで、今こそ支援学校の新校整備を

文科省は、2020年1月に、「特別支援学校における教室不足の解消について(通知)」を

「特別支援学校における教室不足の解消について(通知)」を
発出しました。通知では、2020年度〜24年度までを集中取組期間とし、新校建設にかかるとる国庫補助率を1/3から1/2に引き上げるなどとして、「教室不足の解消に向けた取組を集中的に行うこと」を求めています

支援学校の劣悪な実態を広く伝えよう

昨年度、冊子「障害のある子どもたちに当たり前の学習環境を」を府立支援学校の実態を大阪の障害児教育をよくする会が作成し、朝日新聞でもとりあげられ、反響がありました。知的障害支援学校が劣悪な教育条件にある実態を写真入りで掲載し、教職員だけでなく保護者や地域にも実態を理解してもらおうときっかけとなりました。支援学校

府立支援学校増設署名を大きく広げよう！

2018年度から府立支援学校の増設を求める請願署名のとりくみをはじめ、この5年間で13万9810筆の署名を府議会に届けました。そしてわたしたちの運動により、新たに3校の支援学校の整備が実現する見通しです。今年度も「支援学校の増設を求める請願」署名

大障教は、国に対しては集中取組期間の延長と国庫補助率のさらなる引き上げを求めています。そして、大阪府に対して、特別支援学校設置者として、「過大・過密」「教室不足」を解消するために支援学校の新校整備を求めます。

校がおかれている状況を広く知らせていくことが、請願署名のとりくみを大きくすることに繋がります。この冊子の内容は大障教のホームページから見ることができます。



府立支援学校の実態を
写真入りで掲載

にとりくみ、2月府議会に提出します。府立支援学校の不十分な学習環境、教育条件が注目されています。大きく運動をおしすすめ、支援学校の新校整備の実現に向けて署名へのご協力を心より呼びかけます。

書記局の つじじゅ

つじじゅ

愛称「たるま」と聞いて、みなさんは何を思い浮かべるでしょうか。酒好きならわかるかも……。そう、サントリーウィスキーの「オールド」です。そのCMに使用されていたフレーズ、「dondondondidondonshubidaden o-de-e-e-o」を覚えておられる方もいます。当時、子どもだった私は、その曲を聴くと「もう寝なアカン」と思ったものです。

この曲は、小林亜星さんによるもので「夜がくる〜人間みな兄弟〜」らしい。「人間みな兄弟」のサブタイトルは、開高健が考えたそう。開高健の読みは「かいこうたけし」だが、「かいこうけん」も本人が気に入って使用していた。それは、「開高健」を週刊誌の読者が「かいたかけん」と愛読したことがきっかけらしい。「かいたかけん」↓「かいた、かけん」↓「書いた、書けん」だ。

話を戻そう。サントリーオールドだが、高校生時代に愛読していた山口瞳の「酒呑みの自己弁護」に登場する。「大人」に憧れた思春期の小説を読んで、「大人の世界」を妄想して楽しんでいたので振り返って思う。酒の事は全く分からなかったが、この小説でハイボールを飲んでみたいと思った。何に興味を抱くかは、年齢によって全く違うものだ。

1926年1月19日生まれの山口瞳は、1958年、開高健の推薦で書屋(現:サントリー)に入社している。コピーライターとして活躍。「トリスを飲んでハワイへ行こう」が代表作。彼は護国論者であり、「我が生涯の幸運は、戦争に負けたことと憲法九条に尽きると思っている」と述べている。

(久)

大障教定期大会 発言ダイジェスト(その5)

「戦争反対」「教え子を再び戦場に送るな」を訴え続けよう

泉南支援分会 奥野代議員

給食の民間委託、このままではいけない!

栄養教員部 林代議員

府教委は、令和2年度から調理業務委託の仕様書を見直しました。業務責任者と業務責任者代理の資格要件が引き下げられ、調理師や栄養士の資格がなくても調理業務に従事できるようになりました。

ンと牛乳にヨーグルトかゼリー、その後の2週間は牛丼やカレーライスのみの簡易給食で実施しました。これではなぜ契約不履行にならないのでしょうか。昨年度の2学期になってから

業務責任者代理が不在になり、社員は1名のみ、他はパートの方です。結局2、3学期の間、仕様書に定められている人員の配置はなままだでした。なんとか給食は出せているの

で、見かけは問題がないように見えます。しかし、豊かで安全な学校給食を安定的に提供するためには、このような状況を続けてはいけません。と思います。



ロシアとウクライナでは戦闘がおこなわれており、人の命が奪われています。戦争は

失うものばかりで、得るものはなにもありません。日本は、第2次世界大戦の敗戦を経て、「国民主権・平和主義・基本的人権の尊重」という3つの柱をうたった「日本国憲法」を施行しました。日本は、戦争で多くの命を落とし、また他国民の多くの命を奪いました。その反省をもとにも、

「もう2度と戦争はしない」という恒久平和を謳った「日本国憲法」をもつようになりました。しかし、いまの政府は、「専守防衛」を投げ捨て、防衛費を倍増し「戦争できる国づくり」を進めようとしています。閣議決定などで、政府の都合のよいように解釈を変え、どんどん戦争する体制を作ろうとしています。憲法9条も骨抜きにされつつありますが、私たち教職員組合は、「教え子を再び戦場に送るな」というスローガンのもと、この憲法9条を擁護し、子どもたちが再び戦場に巻き込まれないよう奮闘していかなくてはなりません。今に至るまで、日本が戦争に巻き込まれなかったのも、憲法9条を守り、私たち組合員が「人の命は大切、かけがえないもの」「戦争反対」「教え子を再び戦場に送るな」と訴え続けてきたからこそだと思います。小さな声であっても、平和の大切さを訴え続けていきたいと思います。

ぶれずにがんばる姿を見て一緒に歩んでくれる宝物が、職場にきついている

四條畷校分会 鈴木代議員 辻田代議員

本校では、学校給食の経験がほとんどない新規業者が参入し、必要な物品や手続きも不十分で、試作では、一人の調理員に栄養教諭が一人ずつ付いても給食を作ることができませんでした。保健体育課は、作れるようになるまで試作をすると言いい、試作は4回の予定でしたが6回行いました。結局、カレーライスのみの試作で、給食調理ができた」とみなされました。夏休み明けの最初の3日間の給食は、パ



(鈴木) 私は定年まで、府障教・大障教の執行委員として、長年、組合活動に関わってきました。また、再任用になってからも、分会長として、組合活動を続けてきました。昨年末の母の死がひとつのきっかけとなって、「うつ」の1

苦しくてしんどい日々が続く、周りの人に話を聞いてもらうようになりました。辻田さんは、一緒に授業をもち、分掌も一緒だった昨年度の初任者で、夏休みには組合にも加入してくれました。いろいろ私のために尽力してくれる辻田さんにお礼のメールを送ったときに、彼からもらった返信の一部を紹介しました。「仕事も組合も、最前線で切り開いて、みんなを牽引してきた鈴木先生の頑張り、神様は少し休むように言っているのではないのでしょうか?

来年も一緒に仕事したいです。負担を軽減できるなら何でもやりますので、無理のないようにいつでも話してください」年度末に分会役員人事を考

ながりもあり、今回、分会長候補に選んでもらえたことに縁を感じています。生徒一人ひとりのために障害児教育が充実するよう、働きやすい職場環境など、組合員の一人として一端を担えたらと思います。分会長を引き受ける決意をしました。

大障教運動に確信をもち、平和を愛し、なかまを大切に、目の前の子どもたちのことを考え続ける。そんな当たり前のことを握って離さず、謙虚に誠実にそして愚直に、当たり前のことをやり続けましょう。

田さんという宝物を、大事に育てていきますが、みなさんの職場にもきつくと、ぶれずにひたむきにがんばる先生の姿を見て、一緒に歩んでくれる宝物がおられると思います。



から、分掌として、組合活動を続けてきました。昨年末の母の死がひとつのきっかけとなって、「うつ」の1

苦しくてしんどい日々が続く、周りの人に話を聞いてもらうようになりました。辻田さんは、一緒に授業をもち、分掌も一緒だった昨年度の初任者で、夏休みには組合にも加入してくれました。いろいろ私のために尽力してくれる辻田さんにお礼のメールを送ったときに、彼からもらった返信の一部を紹介しました。「仕事も組合も、最前線で切り開いて、みんなを牽引してきた鈴木先生の頑張り、神様は少し休むように言っているのではないのでしょうか?

来年も一緒に仕事したいです。負担を軽減できるなら何でもやりますので、無理のないようにいつでも話してください」年度末に分会役員人事を考

ながりもあり、今回、分会長候補に選んでもらえたことに縁を感じています。生徒一人ひとりのために障害児教育が充実するよう、働きやすい職場環境など、組合員の一人として一端を担えたらと思います。分会長を引き受ける決意をしました。

大障教運動に確信をもち、平和を愛し、なかまを大切に、目の前の子どもたちのことを考え続ける。そんな当たり前のことを握って離さず、謙虚に誠実にそして愚直に、当たり前のことをやり続けましょう。

田さんという宝物を、大事に育てていきますが、みなさんの職場にもきつくと、ぶれずにひたむきにがんばる先生の姿を見て、一緒に歩んでくれる宝物がおられると思います。

